

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	とうめいこうそくどうろ（とくていこうしんとう）とうめいたまがわはししょうばんとりかえこうじ（いちぶ）
1. 事業(施策)の名称	東名高速道路(特定更新等)東名多摩川橋床版取替工事(一部)
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和2年7月11日 ～ 令和7年3月31日
3. 事業費(工事費)	15,064 百万円
4. キーワード	多分割施工、工事渋滞抑制、昼夜連続規制、工期短縮、施工シミュレーション
5. 事業概要	交通量が多い首都圏の6車線区間初となる床版取替工事であり、最先端の技術の採用、工事に伴う渋滞を抑制する車線運用方法の採用等により社会的影響を最小限に抑えながら交通インフラを確保しつつ、約 15,500 m²の床版取替工事を完了させたもの。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	①-1) a. 移動式門型床版架設機を用いた幅員方向多分割工法	②-1) f. う回路推進、最適化工事規制調整 g. 施工シミュレーション技術の導入
アピールする 2)「秀でた成果」	①-2) i. 工事渋滞の最小限化	②-2) b. STEP4 昼夜連続規制による工程短縮 d. 工事車両の待機時間短縮

7. 特にアピールしたい点
首都圏における重要交通インフラである東名高速道路(東京IC～東京TB)において、工事渋滞による社会的損失を極力避けるため、常時6車線(STEP2・4のみ5車線運用)を可能な限り確保することを優先とした施工において、これを可能とする最新技術として、狭い作業空間でも施工できる床版架設機、多分割したプレキャスト床版の接合精度を確保できる床版接合構造等を採用した。その結果、工事渋滞を最小限に抑え約 15,500 m²の床版取替工事を短期間で完了させたもの。 また、床版取替工事は、サイクル作業であることを踏まえて、施工シミュレーション技術を導入した。3DCGによるバーチャル作業空間を構築し、作業の見える化を図ることで、作業員が事前に作業イメージを経験することを可能とした。さらには施工シミュレーターにて施工体制、作業員数、工事用車両数の最適化を行い、生産性向上を図った。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



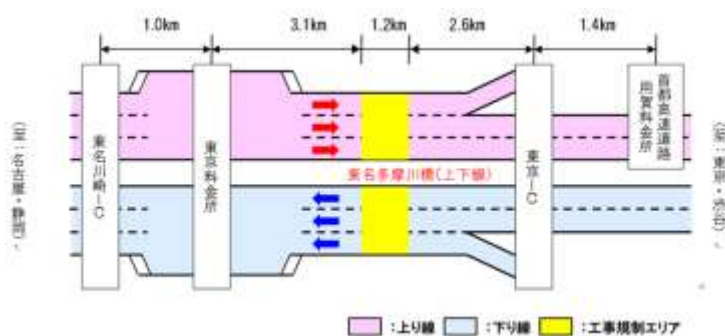
床版工事前



床版取替工事後



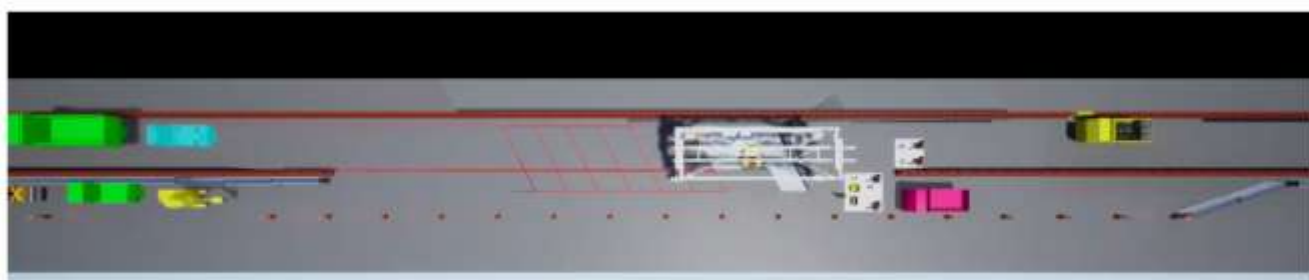
位置図



固定規制・昼夜連続規制体内作業サイクル



施工シミュレーション技術の試行採用



モルタル&スティフクリート打設・段差処理・防水工事

